

9

七月三日
午前中霧往
來ス夕刻晴

張報峯ノ
占領

當面ノ敵ノ
全面的退却

五家子方面

一、第一線部隊ハ機先ヲ制シテ張報峯ヲ攻撃シ午前

二時敵陣地ニ突入シ激戦ノ後之ヲ占領ス時ニ午前

五時十五分ナリ

之ニ前後シテ竹内(繁男)大隊ハ沙草峯西南方ノ敵ヲ

攻撃シテ國境線外ニ之ヲ驅逐セリ時ニ午前六時

稍過ナリ

二、敵ハ張報峯及沙草峯西南高地ニ戦車十台砲二門

屍体多数(張報峯西斜面ノミニテ約四〇ニシテ總數約

一五〇)ヲ遺棄シテ殆ント殲滅的打撃ヲ蒙リ極

メテ小數ヲ潰走ス

又長池東方高地ノ敵歩兵ノ大部ハ退却セシモ重機

野砲ヲ以テ猛烈ナル射撃ヲ我ニ加フ博石洞馬鞍

山香山洞附近一帯ノ敵ハ全面的ニ續々北方ニ退却ス

三、五家子正面ニ在リテハ香山洞方面ノ敵ノ退却ニ伴ヒ

陣中日誌

於ケル敵積
極的合圍

軍參謀長
到着

占領地を確
保ニ關スル
處置

此ノ日午後強大ナル部隊續々新農地附近に後退
集結シ又多數ノ砲兵陣地ヲ認ム

之ヨリ初メテ敵ハ此ノ方面ニ在リテモ強大ナル兵力
ヲ以テ攻撃ヲ實施シ得ルノ姿勢ニ在リ機ヲ見テ

積極的行動ニ出ツルヤモ圖ラサルヲ察知シタリ

四、午後四時三十分北野軍參謀長慶興ニ到着ス其ノ
主要任務ハ昨三井日受領セル軍命令ノ趣旨敷衍

傳達ニ在リシカ如シ

五、師團ハ三十日夜ノ戦闘ヲ以テ事件ノ終結ヲラシメン

コトヲ期シアリシカ午後四時頃田中砲兵大佐(師團長

曾テ陸士區隊長奉職時代ノ生徒ナリシ關係上個人

關係ヲ以テ屢々意見ヲ具申セリハ直ニ兵力ヲ重

滿江右岸ニ移スルコトス然レハ蘇軍ハ明日以後

多數ノ飛行機及戰車ヲ使用シ攻撃シ來ルヘク

事件ハ擴大スルノ虞アリトノ意見ヲ筆記シテ提出ス
 然レトモ當時長池東側ニハ火砲及機關銃ヲ有スル
 相當ノ敵兵尙停止シテ張鼓峯東側斜面及沙草
 峯東側敵方斜面ヲ猛射シ遺棄セル戦車及屍
 体等ヲ收容スルヲ妨害スルアリ一方歩兵第七十五聯隊
 ノ損害ハ相當多數ニシテ之カ處置等ニ時間ヲ要
 シ三十日夜ノ撤退ハ至難ナルノミナラス二十九日ノ實
 例ニ鑑ミ今次反撃ノ目的上蘇側ニ對シ徹底的
 反省ヲ促スカ爲斷乎占據地ヲ確保スルノ要ヲ
 認メ陣地確保及砲兵ノ射撃ニ関シ夫々左ノ意圖
 ヲホス

佐藤(幸徳)大佐へ

張鼓峯及沙草峯西北側閉鎖曲線高地ハ極
 カ之ヲ確保シ且成ルヘク沙草峯南側閉鎖

陸 中 日 誌 四 頁

曲線高地ヲモ確保スルノ企圖ヲ有ス
敵ノ攻撃ニウリテハ之ヲ陣前ニ迎撃スルモ陣前
界約ノ國境線ヲ越エテ遠ク追撃スルコトハ
之ヲ行ハス

田中(隆吉)大佐へ

友軍ニ對スル敵ノ砲撃ナキ限リ射撃セズ敵ノ
反撃ニ對シ準備スルノ外行動ハ之ヲ慎重ニス
特ニ住民地及住民ニ對スル擾乱的射撃ハ嚴ニ
之ヲ戒ム

中央部ノ
意圖

六本事件ニ関スル中央部ノ意圖トシテ軍參謀長
ヨリ參謀本部通牒ヲ傳達セラル

(一)沙草峯張鼓峯附近ノ事件ニ関シ中央ハ現
狀以上擴大セサル方針ヲ以テ局地問題トシテ
敏速ニ之ヲ解決ヲ期スル爲メ外交的商談ニ移

コトトナルヘシ軍ノ行動ハ大命アルヘキモ差當リ
左記ニ依リ處置セラレ度

イ敵ノ挑戦ナキ限リ對敵行動ヲ現在以上

發展セシメス

只軍ノ配置並行動ハ敵ノ反撃ニ對シ準備

スルノ外暫ク現在ノ儘トシ行動ハ之ヲ慎

重ニス

軍參謀長説明

挑戦トハ敵ノ攻撃前進又ハ友軍住民ニ對スル

砲撃ヲ云フ

七、當時敵、既ニ相當強大ナル兵力ハ一日午後博石洞、馬

鞍山ヨリ以北ニ退却セル敵中、水流峯、五家子ノ我陣

地ヨリ、自撃セル兵力ノミニテ歩兵三四大隊、火砲二十八

門ナリヲ集中シ之ヲ單ニ張鼓峯、沙草峯方面ニ

兵カ招致ノ
處置

指向セルノミナラス 三十一日ノ行動ヨリ判断シ豫メ
 五家子前面ニ對シテモ攻勢的態勢ヲ採リアリ
 タルヲ確認シ得タリ
 而シテ彼カ一旦新農垓及フハンシ山香山洞附近ニ
 兵力ヲ集結セル真企圖ハ我軍ノ積極的企圖
 ニ對應セントスルノ處置ナリト判断スルモ我五家子
 附近ハ彼我ノ態勢上正ニ被包圍ノ形勢ニ在リ
 敵ニシテ萬一突飛ナル決意ヲ以テ五家子高地
 ノ我守備隊ヲ攻撃センカ該守備隊ハ全ク孤立
 無援ニ陥ルノ虞アリ然レハトテ目下沙草峯張鼓
 峯ニ面シテハ兵カヲ抽出シテ之ニ備フルノ餘裕
 ヲ有セス故ニ速カニ在羅部隊ヨリ兵カヲ招致スル
 ヲ急務ト認メ正午過不取取獨斷步兵第七十
 三聯隊及同七十六聯隊ノ各二大隊並山砲兵一大隊